

# 静私心なだより



- 海外研修報告
- 特集「園外保育と安全管理(その3)」日向崇紹
- 特集「今、改めて砂場を捉え直す(その4)」箕輪潤子
- コミュニティ(保育の窓)
- もの思い(リーチェル幼稚園・北浜幼稚園)
- 教員養成機関との意見交換会
- 街ぶらり(清水地区)
- 健康随想/吉野友勝
- 1年間のナイスショット特集



NO.185  
2019③  
Spring

# 平成30年度 海外研修報告

期間 ■平成30年9月1日～9月18日  
場所 ■スウェーデン王国  
スコーネ県ヘルシングボリ市

## ■視察目的

就学前教育の先進国として注目を集めるスウェーデンは、幼保一元化されたプレスクールが主になっている。日本でも、こども園に移行する園が増えており、子どもを取り巻く環境が変わってきているため、参考になることが多いと感じた。子どもたちがいきいきと生活し、主体性を育てるために何を大切にしていけば良いのかを考える時、スウェーデンの教育にヒントがあるのではないかと思った。

また、日本の年長児にあたる5歳児が小学校の校舎の中で過ごしている様子にも興味があり、なぜそのような形態になったのかを聞くことも視察の目的とした。

## ■研修生

学校法人今村学園・認定こども園富士ふたば幼稚園  
金子慶子  
学校法人蒲学園・蒲幼稚園  
田中文  
学校法人相愛学園・焼津豊田幼稚園  
木村和美



環境工房で作った人形

## ヘルシングボリ市の幼児教育の特色

スウェーデンでは、来年度から新教育要領が施行される。その中に1歳から5歳の子どもの対象にした保育の中に教育というコンセプトが加わり、遊びについても意味が見直され重要としている。子どもの遊びがより深まるために、少人数保育や様々な専門家に聞かれる場も確保されている。また、豊かな自然を活かしたグループ活動も盛んである。

## 日常生活から生まれる主体性

教育の中に民主主義の精神が強く反映されているため、些細なことでも自己決定することを年齢が小さいうちから行っている。自分でその日の予定や遊びを決めるだけでなく、食事の席を決める、食べる量を決めることもそうである。子どもたちと一緒に食事する機会が何度もあったが、配膳や片づけも自分でしていた。年齢が小さいとこぼしてしまうこともあるが、そこで注意したりするのはなく、まず自分でやらせてみることを大切にしていた。取り分けた皿を見ると栄養バランス的に偏りもあるが、そこで教師がそのことに対して声をかける様子はない。子どもが選んで決めたことを尊重する姿勢の表れなのだと伺える。

## 専門家との交流による遊びの広がり

普段子どもたちと一緒にいる担任教師



野菜で顔を作るサンドイッチ

だけでなく、専門家と関わる様子も見せてもらうことができた。例えば、環境工房(注)にいる専門家から人形づくりの際、のこぎりなどの道具の扱い方を教えてもらっていた。子どもが扱いやすい道具を用意したり、感触を味わえるように何種類かの羊毛を置いておくなど配慮されていた。自分で作った人形を満足そうに飾る姿、その後の人形のプロフィール作成など楽しそうな様子が見られた。また、栄養士の先生から様々な野菜を使ってパンの上に顔を作る遊びを教えてください、食べ終わった野菜や果物の



野菜の皮で自由製作

皮を構成しながら見立て遊びをさせてもらったりしていた。この遊びは私たち研修生も体験させてもらい、この楽しさを知ると共に子どもたちに経験させる意味を考えさせられた。その他に、絵画指導の専門家が来たり、デジタル機器の専門家から指導を受けているという話を聞いた。専門家ならではのアプローチの仕方があり、教師の勉強になることも多い。

(注) 環境工房：市内から離れた場所にある自然豊かな教育施設。工房では、専門家と一緒に自然物を使った様々な製作



## 小学校・幼稚園クラス

ができる。

日本の幼稚園年長組にあたる子どもたちは、小学校にある幼稚園クラスに行くことになっている。私たちが視察したマリアパルク小学校は幼稚園クラスと一年生のクラスが隣り合わせに配置されていた。お互いの様子が見やすく、交流も

小学校幼稚園クラスの遊びの様子



やすいため、教師同士も連携を取りやすいということだ。私たちが訪問した時期は、周囲のプレスクールから集まって3週間ということもあり、遊びを通してお互いを知るための活動を主に行っていた。校舎の近くの森に出掛けたり、友達と木の人形に名前をつけてiPadに入力し、そこに絵を描いていた。今は教師が活動の流れを決めているが、秋頃からは、子どもたちが自分でプロジェクトに向けて活動を決め、進めていくようだ。活動内容を見て、日本の年長児に共通することも多いと感じた。

## 振り返りの時間の充実

室内や屋外の活動を見ている、活動後の振り返りをとても大切にしていると感じた。アウトドアクラスでは、子どもたちが見つけてきた物をシートに集めて

づけていた。一日に何度もこうした時間があることで、自分で話すこと、友達の意見を聞くことが自然に身につけていくのだと思う。

## 《視察を終えて》

昨年に引き続き、ヘルシングボリ市で研修をさせていただき、色々な角度から保育を見せてもらえたことは、とても勉強になった。日本の保育に共通する部分もあり、自分たちの保育の見直しや振り返りのきっかけにもなった。受け入れて下さったプレスクールで

「どこにあったの？」と尋ねて一人ひとりに話を聞いていた。中にはゴミを拾ってきた子もいたが、すぐに捨てるのではなく「これはどこからきたのかな?」「どうしたらいいの?」と話を聞いてから片

は、日本語を子どもたちに教えておいてくれたり、日本の場所や国旗に興味をもてるように配慮して温かく迎えてくれた。初めて顔を合わせる私たちに、「コンニチハ」と子どもたちが次々に挨拶をしてくれたことがとても嬉しかった。些細なことだが、こういう気遣いが大切で、人と人をつないでいくのだと改めて感じた。そして自己決定できる子ども、自分の意見に自信をもち行動できる子どもは、様々な積み重ねによって育つのだと学んだ。そのための教師の見守りや連携、配慮や熱意を自分たちの今後の保育に活かしていきたいと思う。



# 園外保育と安全管理

◆◆生き物を知識としてだけでなく

体験を通じて学べる機会 ◆◆



年長の子どもたちに「危険だと思っ  
生き物について思い浮かぶものは」を  
質問すると、動物園で見てきたであ  
うアナコンダなども聞こえてきま  
す。静岡県内の各地域の自然度によ  
ってはクマやイノシシと答えること  
もありません。しかし、もっと身近な  
生き物として掘り下げていくと「ハチ  
とかへびだよ」と子どもたちもしつ  
かり答えてくれます。個人的な感  
覚ですが10年位前から、それぞ  
れの生き物についての予防や対処  
の正しい情報まで届いているよう  
にも感じます。ただ実際に危険な  
生き物に遭遇してしまつた時に知  
識通りに実行できるかが肝心な  
のです。園外で実際にあつた園児  
の様子や、私の体験談も含めて今  
回はお伝えしていきます。



知っておきたい生き物として、静岡県内で身近に生息しており命に関わる事故が多い生き物を優先的に紹介しま



す。(この条件では2014年に東京都内代々木公園を中心としたデング熱で認知されはじめた、蚊を媒介としたウィルス感染の猛威が世界では凄まじい状況ですが、国内での死亡例が少ない)ここはやはり、ハチの仲間について最初に挙げておきます。年間で国内での死亡人数として平均20人程度になつており、他の生物を圧倒的に引き離して死亡事故を起こすことが多い生き物です。事故ニュースや害虫駆除のテレビ番組などメディアでもスズメバチは取り上げられるようになり、子どもたちの中にもその生息について詳しく知つていることもあります。スズメバチは人間の住む街中や公園に近く重なる場所にも生息するために、世界の中でも危険な生き物のランキングで上位になると考えられています。

ただハチの仲間全てがとも危険ということもなく、みなさんも体験されているかも知れませんが近くをハチが通り過ぎてても人間には興味はなしということも当然あります。では事故はなぜ起きるのでしょうか。それはハチの種類・時期や場所と遭遇した時の人の



ひゅうが たかつぐ  
**日向 崇紹**

自然案内人

子どものための  
自然体験アドバイザー





行動で結果は変わります。ハチの中でも、針と一般的に呼ばれる部分を毒針として使用する仲間（スズメバチ・アシナガバチ・ミツバチ・マルハナバチ等）に刺される可能性があります。また働き蜂にとって自分たちの巣を守らなければならない時期なのか、巣に近づく生き物が自分たちにとって脅威となるかどうかにもハチたちは注意しています。スズメバチは自分たちのコミュニケーションツールとして「におい物質」を各種使い分けて、警戒や攻撃などの信号を伝えることができます。さらにこのにおいを使用して、ハチにとって有事となる場合に標的となる生き物に吹きかけてマーキングしてターゲットを明確に追いつけることも

するのです。社会性がある仲間であるために何十匹何百匹に襲われることを想像するだけでも、多くの羽音が耳元近くから聞こえてきそうで恐ろしいものです。もちろん人間が全力で走ったところでは到底逃げ切ることのできないスピードでスズメバチは飛行することができます。このハチの感じ取るにおいについては、私たちの飲むジュースや香水等の香りにも反応する場合がありますので、同行する子どもたちと保育者へ注意してもらおうようにしておくようにしましょう。

では、予防と対処について考えていきましょう。ここで代表的なスズメバチについてお伝えします。夏から秋に巣作りを行うために活発になることもあり、その時期を避けて屋外で活動することが根本的な危険回避の手段ですが実際には難しいでしょう。園外保育の場面で効果的なのは下見の実施です。異常があればコースを変更することもできます。1週間程度の事前下見を含め当日下見を複数回行い、異常を発見できることが望ましいです。2016年の岐阜県での事故ニュースでは前日のみの下見は実施していましたが、死亡者はいなかったものの115名の被害者を出してしまったマラソン大会がありました。私の体験では園外保育の依頼を受けると必ず現地の下見を行うのですが、その日も行き交うスズメバチの多さや樹液を求めて同じ木に留

まる個体がいなかを気にしながら進んでいました。山道脇の大きな木の背面側の樹液に何匹も滞在していたスズメバチに気づかず、その大木に手をかけた時が思い出されます。声も出さずゆっくりと手を引き、身をしゃがめてハチの様子を伺いました。知っていた通り警戒している時に聞こえるアゴを力チ力チさせる音があったので危険だと感じました。低音の羽音が私の周囲を何度も旋回しましたが、ハチを刺激しないよう反応せずに静かにして後ずさりです。その場から無事に離れることができた。（もし近くに巣があると考えられる場合には10〜20メートル以上の距離を保つことが必要）静かにしてゆっくりとした動作をすることや、ハチの飛行する高さよりも身を低く保つことで刺される可能性を低くすることができるといふ知識を実体験することができた瞬間でした。また、園児を引き連れていた時には帽子や長そで長ズボンの着用を促し予防を喚起していました。子どもたちや保育者の焦る気持ちが落ち着くまでの時間がかかり、次の指示が保育者まで伝わるまで緊張汗をたくさんかくことになってしまいました。よって、できるだけ実際の対処の流れに近い動きや声掛け・合図を出発前に予行しておくことも必要です。また淡い色よりは濃い色、端的に言うところと黒色に近い色ほど刺されやすいと言われており蜂駆除の防護服はほとんど白色ということも納得ができます。

今回はハチについてでしたが、不明確なことや不可解なことがあるために恐れてしまうことは当然ではあります。しかし確かな情報から危険な生き物たちを正しく怖がることができたら、その生き物たちとお付き合いしやすい適切な距離や方法を保つことができます。また、それぞれの生き物にとっても生き抜いて勝ち取ってきた戦略があり、それぞれが地球上の貴重であり多様な生物種のひとつの命として今日も存在していることを想像してみましょう。

次回へ続く

## 自己紹介 日向崇紹

山梨県生まれ、藤枝市在住

自然案内人・子どものための自然体験アドバイザー

常葉大学教育学部卒業後、社会人経験後に復学し自然環境復元について学ぶ。日本環境教育学会員、静岡市環境学習指導員。また野外や災害時に特化した海外の救命法や小児専門の救急救命法、日本山岳ガイドなどの資格取得の経験がある。現在は児童福祉施設の施設長として勤める傍ら、講師として小中学校の総合学習（自然環境）の支援、幼稚園・保育園児のための自然遊び・生き物探しや、保育者向けに園外活動の指導・危険な動植物・ケガの対処等の安全講座を開催している。

# 今、改めて 砂場を捉え直す

## 砂場の「環境」と子どもの育ち

みなさんの園の砂場はどのような環境でしょうか？・・・砂場は園のどこにありますか？大きさはどれくらいですか？砂場はいくつありますか？水場からの距離はどれくらいですか？砂場の道具にはどのようなものが幾つくらいありますか？水を使う時はどのような使い方をしていますか？

平成17年の幼稚園設置基準の改正までは幼稚園に砂場の設置が義務付けられていたこともあり、全国殆どの幼稚園に砂場はありますが、幼稚園の砂場の環境は幼稚園の数だけ違います。保育園環境は幼稚園や先生方の願いや思いが込められて構成されるのですが、砂場の環境も「子どもたちにこのように遊んでほしい」という園や



保育者の願いが込められているのを感じます。そのようなかたけで、砂場の環境について考えてみたいと思います。

### 道具に込められた園の願い

砂場にはシャベルやバケツ、お皿など様々な道具があります。道具はそれぞれ掘る、入れる・溜める、ふるうなどそれぞれの目的があり、また子どもたち自身も道具の使い方を工夫しながら遊びを展開していきます。様々な道具の使い方がありますが、今回は道具と遊びの関係をとても考えさせてもらえる事例として、2つの園での同じ学年同じ時期、同じ道具をめぐる遊びを紹介したいと思います。

#### ●A園 4歳児4月 「築山の砂を運びたい」

コウキくん、カストくんは剣先スコップを持って築山の上に乗って、スコップで築山の砂を運びようとしている。コウキくんは築山にスコップを何度か軽く縦に挿すようにして砂を崩し、カストくんはスコップ



武蔵野大学  
教育学部准教授

箕輪 潤子

プに片足をかけてぐっと力を込めて砂に差し込んで砂をすくう。すくった砂は押しぐるまに載せて運んでいく。

#### ●B園 4歳児4月 「年長さんのキンキンなんだよね・・・」

リサ、ユウト、シュンの3人は、プラスチックのスコップで砂場に穴を掘っている。しかし、砂は掘りづらいようで、ユウトは「この砂重いな」とシュンに話しかける。そこにリサがスコップに水を汲んで戻ってくる。リサが水を穴に入ると、ユウトはそこを掘り始める。リサとシュンは立ち上がり、同じ砂場内で剣先スコップを使って簡単に穴を掘っている年長の様子を羨ましそうに眺めていたが、「掘ろうか」というシュンの一言で、リサはプラスチックのシャベル、シュンはプラスチックのスコップを使い穴を掘り始め



た。リサとシュンが掘り始めたタイミングで、ユウトが年長の方をみて「年長さんはさ・・・」と言う。それに答えるようにリサが「年長さんの（スコップ）はさ、先がキンキンなんだよね」と言う。年長が使っている道具が羨ましくなったのか、ユウトの動きが止まりかける。すると、シャベルを使っていたリサが、スコップを使っていたユウトと道具を交換する。シュンは、シャベルを上から勢いよく穴に向かって何度か差し込み砂を崩そうとしている。



何度も気持ちを立て直し取り組んでいく姿もみられました。B園では、年長だけが鉄製の剣先スコップを使えることになっています。その理由は年長児が特別に使えるものやできることがあることで、年長児に年長児であることの誇りや喜びを持って欲しい、また下の年齢の子どもには年長児への憧れを持って欲しいということでした。

どちらの園がよいというのではなく、剣先スコップというものを出す・出さないということだけでも、これだけ子ども遊び方は変わります。遊び方が変わり、それが積み重なれば育ちも変わります。園の願いを砂場の環境にどのように入めるかによって、そこでの遊び、経験、育ちは大きく変わってくるのではないのでしょうか。

### 水の使い方をめぐって

水は砂と親和性が高く、水があることで砂場の遊びはよりおもしろいもの、豊かなものになっていきますが、水の使い方も園により様々あるようです。砂場と水場が離れている場合、水場から子どもがバケツやジョウロで汲んでくる方法、砂場の近くに水を入れたコンテナやたらいを置いてそこから水を汲む方法、水道にホースをつないで水を流して砂場に入れる方法…。どのように水を子どもたちが使うようにしているかによっても、子どもの遊びは大きく変わります。

まず、水場からバケツなどで水を汲んで来る場合は、子ども同士の役割分担が生まれやすいようです。穴や道を掘っているうちに水を流そうとなることで、誰



かが汲みに行き始めるという感じですが、道路を作る子どもと水を汲みにいく子どもに分かれ、それが時によっては交渉などで交代しながら遊びが展開されていきます。ただし、砂場と水場の距離が離れすぎていると、年少児などは水を汲みにいくうちに他のおもしろい遊びに出会うとそちらに行くこともあるようです。

砂場の近くのコンテナやたらいから水を汲む場合も、役割分担がよくみられますが、水道から水を汲むのとは違う様々な汲み方の工夫がみられます。水が少なくなると、コップなど小さな容器を横にして汲んだり、コップからバケツやジョウロに水をためてから砂場に持つていくということもみられることがあります。

水道にホースをつないで水を流す場合は、バケツなどで汲みに行くのとは異なり常に水が流れ続けるため、子どもの興味は水が流れる勢いに向かうようです。水量が少なく水の勢いが弱ければ、自分たちで水の行き先を掘り始める遊びに展開していくこともあります。水量が多く水の勢いが強い場合はホースを持つて水の勢いを手と視覚で感じる遊びや、水と砂が混ざった中でどろどろの感触を楽しむ遊びに展開することがよくみられます。

今回は砂場の環境について見えてきました。砂場の道具や水場は子どもの動き、遊びの展開と経験に大きくかかわってきます。ぜひ、園の砂場にどのような道具があり、子どもたちがそれをどのような使い方をしているのだろうか、また私たち教師は何を願っているのだろうか、遊びをさらに豊かにするためにどのような道具があるか、遊べるように、水の使い方をどうしたらいいだろうと考えていただけたらと思います。

A園では、4歳の4月でも鉄製の重い剣先スコップをうまく使いこなしています。A園では子どもたちにも好きな場所を好きなだけ掘ってほしい（＝したいと思うことを思う存分自由にしてほしい）という願いを持ち、道具の使用については危険がない限り制限をせずに誰でも自由に使えるようにしているそうです。子どもたちも、使いたい時に自分たちで使いたい道具を選んで砂遊びをしています。そのため、剣先スコップのように使うのが難しい道具でも、使っているうちにだんだんスコップの使い方に身体が慣れてきて、使えるようになっていきます。そして、使えるようになることで、遊びも広がっていきます。

一方、B園では、年長しか剣先スコップが使えない中で、年中の3人はなんとか道具を選んだり交換したり、水を入れたりするなどの工夫をしながら穴を掘り続けていきます。また、年長を羨ましげにじっとみているうちに、年長が楽に掘ることができると理由がスコップの尖り具合だということに気づいています。さらに、なかなか掘れなくて嫌になりそうになってきた子どもに対して、思いを汲んで支える子がいることで、



あつという間の一年

富士ふたば幼稚園

伊藤 希

私は自分が通っていた時のクラスの先生が大好きで憧れを抱き、保育園へ進んできました。実際に幼稚園教諭となり、想像とは異なることが多く衝撃を受けました。その一つに、幼稚園の先生はふわふわとしていつでも優しいイメージでしたが、子どもたちに伝えるべきことはきちんと伝えている先輩方の姿はとても凛々しく、心が引き締まりました。

毎日子どもたちと過ごす中でやりがいを感じるのは、クラス全員と一緒に何かを成し遂げた時です。例えばできないようになった時には一緒に喜び、運動会や音楽会を終えた時の達成感是非常に大きく、子どもたちと成長を分かち合えることがとても嬉しいことです。楽しいことが多い反面、大変だったことや苦しかったことも多くありました。4月に担任だと聞いた時には不安でいっぱいになり、どう保育を進めていけば良いのか分からず、頭が真っ白な状態でした。しかし私には頼もしい



先輩がサポート役としてついてくださり、とても心強く助けられながらここまでやってきました。同じ学年の先輩方からは、子どものやりたいという気持ちを引き出すにはどういう仕掛けや言葉掛けが必要なのかというのを、保育を見ながら学ばせていただきました。先輩の保育を真似しながらやってみると、子どもたちの反応がキラッと光り、手応えを感じたのを今でもよく覚えてい

ます。

4月から今日まで一日一日が本当にあつという間に過ぎていきました。目まぐるしく過ぎていく中でも自らの保育の振り返りは、大事な仕事のひとつとして捉えています。これからも担任として責任を持ち、子どもたちが安全に楽しく過ごせるよう、また褒め言葉の語彙を増やして子どもたちが自信を持てるよう努めていきたいと思えます。そして二年目にはこの一年で学んだことを生かしていきたいと思えます。まずは自分が保育を楽しむことを大切に笑顔で頑張ります。

先生と呼ばれるようになって

小川幼稚園

内藤 友希

「友希先生 今日楽しかったね」と子どもたちが笑顔で言ってくれる時が保育のやりがいを感じる瞬間です。小学生の頃からあこがれていた幼稚園教諭になることができ、早いもので年少クラスの担任を任されてから一年が経とうとしています。

右も左もわからない私に年少の担任ができるのだろうかと不安に駆られることもあつたり、初めてクラス担任を持つことができたという期待も胸にあります。

実際に子どもたちの前に立つと、想像していたよりも遥かに緊張したことを思い出します。思い通りにならないことが多く、クラスをまとめることがこんなにも大変なものだということを実感しました。そんな私の保育を見ていつも指導してくださいましたのは先輩の先生でした。先輩の先生から「子どもたちが飽きないように間を作りすぎないこと。間が長すぎると子どもはすぐに気が散って集中力が持たなくなるよ。そうなる前



に手遊びをしてつなげたり、準備などはあらかじめしておくことが大切だよ」とご助言をいただきました。自分の保育を振り返ってみると、活動をするときに準備をすることが多く、子どもたちを待たせてしまうことがしばしばありました。日々反省しながら子どもたちがどうしたら飽きずにいるのか、そのためには私自身の準備をどのくらいまでしておくかを考えました。

また、日々の保育で子どもを叱ることがあります。ほとんど毎日誰かしらを叱っていることが多くありました。そんな私の保育を見た先輩の先生から「叱ることも大切、だけど帰るときはみんな笑顔で帰れるようにすることが大切だよ」というご指導も受けました。真摯に受け止め、叱るときはしっかりと叱る、でも帰りはみんな笑顔でということを念頭に置き、日々保育をしています。今の私の保育はご指導あつての保育ということを感じながらこれからも「先生」という責任をもって、成長していきたいと思えます。



# 保育の窓 コミュニティ

## 5年経って感じること

エンゼル幼稚園

井出翔子

私が幼稚園教諭になり5年が経ち、希望や期待を持って子どもたちと日々過ごしている反面、不安や緊張も多くありました。そんな中で私が前向きになれたのは、子どもたちの笑顔や周りの先生方のおかげでした。辛く悩んでいた時は「一緒に頑張ろう！」「こういう時はこうすればいいんじゃない？」などアドバイスをもらい、楽しい時は一緒に笑い合い、そんな毎日を通して今日まで前向きに頑張ってきた。

子どもたちは廊下や教室で会うと「先生、おはよう！」「一緒に遊ぼう！」と元気に笑顔で話し掛けてくれたため、毎日パワーをもらっていました。また、困っていると「大丈夫？」「これはこうだよ！」と優しく教えてくれる救われることがたくさんありました。

保育をする中で、子どもに対する声掛けや対応の仕方など困ることも多々ありました。子ども同士で喧嘩をしたり、活動中に泣いてしまうとき、何が理由で泣いているのか、どういう声掛けをすればよいのかを日々考え関わってきました。喧嘩の



仲裁に入る際は、子どもの気持ちを聞いたうえで解決をしなければいけません。子どもたちがお互いの気持ちを理解し、自分の口で「ごめんね」と伝えることができるのを見ると、成長を感じ嬉しく思います。喧嘩をして学ぶことも多く、仲が深まっていくのだなと感じます。活動中の涙は、寂しいからなのか困っているからなのかで声掛けが変わってきます。中には、なかなか自分から保育者に話し掛けられない子どももいます。保育者と2人の時間を作り、ゆっくり話を聞いてあげる時間を作ることが大切だと感じています。子どもと関わる中で気持ちに寄り添うこと、声掛けの難しさを改めて実感しました。

今後、子どもたちの成長を見守り、同時に私自身も成長していきたいと思えます。また、私が先輩の先生方にしてもらったように、後輩の先生に適切なアドバイスをしていきたいです。どんな時も笑顔を忘れずに、子どもたち一人ひとりの気持ちに寄り添えるよう心掛けていき、子どもたちからも周りの先生からも必要とされる先生でありたいと思います。

## 私の力は子どもたち

磐田聖マリア幼稚園

大倉あきみ

小学生高学年の頃から幼稚園や保育園のボランティアに参加し、「先生になりたい」と、思いを募らせたことを今でもはつきりと覚えていいます。

幼稚園教諭になって6年が経ちます。自分が育った幼稚園に保育者として戻ってこることができると決まった時は、本当に嬉しい気持ちでいっぱいでした。お世話になった先生や先輩方に支えられながら、目まぐるしい日々を過ごしてきました。

6年目を迎えた今思うことは、私は子どもたちに生かされているということですね。日々の生活や業務に追われるとどうしても余裕がなくなってしまう。それでも子どもたちは変わらぬ「あきみ先生おはようございます」と笑顔で挨拶をしてくれたり、「鬼ごっこしよう！先生鬼ね！」と駆けていきます。先生という仕事にも慣れ、「この子たちのために」と思うことが多くなったように感じます。子どもたちの笑顔や成長のために、自分が今出来ることは何か。子どもたちに伝えなければならぬことは何かをよく考えるように



になりました。

伝える時ただ伝えるのではなく、子どもたちの小さくて純粋な心にしつかりと伝わるように言葉を考えて、温かい表情で伝えるように意識するようにしました。叱ってしまったり、注意をした日は、「ちゃんと伝わっただろうか」「もつと違う言い方があったのではないか」と反省を繰り返す毎日です。分らないことや悩むこともありませんが、それ以上に「幼稚園の先生になってよかった！」と心から思えるようになりました。

自分の保育が分らず、自信も持てず、「辞めてしまいたい」と考えてしまう時もありました。しかし、未熟だった自分と向き合い、反省と実践を繰り返して、ようやく自分らしさや保育の方向性を見つけることができました。今の私の考えがあるのは、支えてくださった先輩方や今まで受け持った子どもたちのおかげだと思います。日々の感謝の気持ちを子どもたちには日々の生活で、先生方には自身の成長で返していくことができるように、これからも励んでいきたいと思えます。

## 幼稚園で身についたこと

リーチエル父母の会会長

松岡栄子

わが家には、中学三年の息子と小学五年、年長の娘がおります。三人の子どもたちの幼稚園生活を振り返ってみますと共通して身についたことがあります。それは、決めた目標を達成するために、できるまで努力する諦めない心です。

長男は毎日幼稚園に登園すると、決まってお気に入りの自転車に乗っていたそうです。最初はお気に入り、楽しいという気持ちが大きかったと思いますが、いつしか乗れるようになったという気持ちに変わっていったのだと思います。年長時にはスイミングが始まります。長男は顔が濡れることをとても嫌がり、すぐに被っている帽子で顔を拭いていたので、目を開けて10秒潜るという進級テストすらクリアできませんでした。卒園間近の最後の進級テストで、意地でも受かりたいと目を閉じないように指で目を見開いてなんとか合格をもらいました。それがきっかけで「僕、泳げるようになりたい」と、その後スイミングスクールに通い、全ての泳法をマスターすることができました。小学五年の娘は、卒園までに逆上がりができるようになりたいという目標達成に向けて、毎日登園しては鉄棒の練習をしていました。雲梯や縄跳びも同様です。小学四年生を迎える前に、自転車で乗れなかった娘は乗れない自分が悔しくて、泣きながらも何度も何度も練習して、自転車教室までに乗れるようになりました。そして年長の娘も、姉姉の姿を見て育つているので、負けん気が強いんです。歳が離れ

ているのでできないのは仕方がないことなのに、上手く絵が描けない、漢字を書きたい、縄跳びが跳べるようになりたいと、一生懸命努力している姿がとても微笑ましく思えることが多々あります。

幼稚園は、親元から離れて初めての社会生活の始まりです。歌や楽器、絵や工作、運動と、いろんなことに毎日挑戦し成長して帰ってきます。その成長の陰には、欠かすことのできない先生たちの温かな励ましと、支えがあつてこそだと感じています。そして、その成長を間近で見られることに、親としてとてもうれしく感じています。幼稚園を卒園してからも上の二人の子どもたちは、幼稚園時代に身につけたその精神のお陰で、勉強や運動をできるまで頑張る、自分が納得いくまでやり通すことを実践しています。

三つ子の魂百までという言葉があります。幼稚園生活の中で子どもたちは生きていく上で、自分の力で乗り越えていく強さを身につけることができたと感じています。リーチエル幼稚園の先生たちには大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。



## 息子たちの成長とファミリリーキャンプ

北浜幼稚園PTA会長

内山雅彦

我が家には中学生、小学三年生、年長の三人の息子がいます。息子三人、まさに三者三様です。几帳面で融通が利かない恥ずかしがり屋の長男。放っておけばずっとしゃべったり歌ったりしている騒がしい次男。積極的に負けず嫌いだけど甘えん坊な三男。親としては同じように育ててきたつもりでも、全く性格も趣味も得意なことでも違うことに驚きます。大体、常にかの中では兄弟げんかが勃発しているのか、次男、三男の謎の戦いごっこが始まり毎日が大騒ぎです。

そんな我が家も三男がいよいよ幼稚園を卒園します。妻は遠足・運動会・発表会などなど三人分でもどれも九回ずつ経験させて頂いたのが、幼稚園生活は十分満喫したと言いますが少し寂しくもある様子です。私はどうも、息子たちの幼児期は公私ともに忙しい時期と重なり子育てに協力的であつたとはいえませんが、そんな中で、小学校PTA会長、翌年には幼稚園PTA会長を拝命し子供たちと必然的に向き合う機会が増えたことは今となつては良い機会であつたと思っております。

また忙しい中でもアウトドアが好きなのもあり、必ず年に数回は家族でキャンプに出掛けることを続けています。バンガロー泊やコテージ泊から始めて最初のテント泊は三男が夜泣きをしな

くなつてきた二歳の夏でした。キャンプの回数を重ねる度に、以前はできなかったことが今ではできるようになっていたりします。息子たちの成長を毎回ひしひしと感じます。そして子供の成長はあつという間だなと実感します。

最初のころはテントを組み立てるのも一苦労。長男に三男の相手をしてもらっている間に妻と必死で組み立てました。時にはブヨに刺されまくったり、大雨の中テントを撤収したり、強風の中で年越しキャンプをしたりハブニングも多々ありましたが、振り返ればどれも良い思い出です。忙しい日常から離れ親もゆつたりと過ごす非日常な時間は子供も安心できるようです。今では三男が一番のアウトドア好き。「早くキャンプに行きたいな」とつぶやいています。長男はというと、中学生になり家族で出かけるのは遠慮するようになりました。寂しいですが、これも成長の過程だと思っております。ファミリリーキャンプ、これからも息子たちが付き合ってくれる間は続けていき成長を感じたいと思います。



# 教員養成機関との意見交換会

平成30年11月22日(木)に教員養成機関と私立幼稚園振興協会との意見交換会が私学会館5階大会議室にて行われました。

例年、夏前に開催していましたが、今年度は時期を変え11月に行い、県内外から20名を超える教員養成機関の先生方がお越しになり、当振興協会からは千葉理事長はじめ副理事長・各常置委員長・各地区長・広報委員などが参加しました。

当日は、まず全体会を行い、その後AからDの4グループに分かれ分散会を行いました。最後に全体交流会として各グループの書記よりの内容発表がありました。各分散会では、就職や実習など多岐にわたって活発に意見交換が行われました。その内容をまとめたものを記載しましたので、ご覧ください。

## 【実習について】

- 極力多くの学生を受け入れたいが、時期によっては学生が何人も一緒になってしまうことがある
- 多くの学生は実習をした園に就職するが、人間関係のことをよく見ていて、先生同士の会話や嫌な部分を見てしまうと就職はしない↓コミュニケーションを重視している
- 文科省から母園での実習は行わないほうが望ましいとの通達がある
- 学校により実習生に違いがある、採用しない学校もある
- 実習の期間は2週間だとせわしない、1か月くらい欲しいのではない
- 「卒園生だから」と甘い評価をしないでほしい
- 指導案と日誌がなければ学生は喜ぶ
- やりたいという気持ちになるように、養成校からの本音の情報も逆に返してほしい

● いかにか学生が楽しくかわっているのか、実習日誌の書き方よりも先生になりたい意欲を大切にしている

## 【就職について】

- 求人票を出すタイミングは早ければ早いほうが良いが、一斉試験や公立の採用試験が終わってからのになるので、一律にこのタイミングが良いというものはない
- 男性は将来的に不安を感じている↓一般企業に流れる
- 実家から通えるところを探す・勤務地で探す・通いやすい
- 学生の絶対数が減っている(県外でも人手が足りない)↓こども園へ移行すると大勢の採用(一つの園に大量に就職する)↓ほかの園は不足する
- 実習先で声をかけてもらう・卒園した園に行く
- 園の雰囲気
- 決める・園長先生の笑顔で決めた学生もいる
- 幼稚園就職者は定員の15%↓20%くらい
- ピアノがあるかないかで決める
- 実習の時期も大きく影響している
- 実習の振り返りが学生にとって大きい
- 業界の実態を見ている(保育



士の労働環境が悪いというサイトを見ている学生もいる) 逆に業界のいい部分がたくさん紹介されている「ティーチャーズ」というサイトを見てほしい

- 人間関係が良好か、福利厚生はというところも見て
- ピアノが得意、記録が得意な生徒は幼稚園希望
- 保育内容も決める要素
- 養成校の職員の学生に対する「常識がある」基準が変化している。↓「一般常識」の(養成校) 概念が変化している(養成校と園との) お互いの基準を合わせていく必要があるのではない
- マッチングミス↓(初任者) 研修の段階で合わないと思う・作業が追い付かない・就職してからの人間関係や労働条件、実習とのギャップ・過重労働・理想と現実の差・メンタル面
- 途中の退職は養成校に情報が入らないが、ほかの学生から、人間関係・労働条件・理想と現実のギャップ等と聞く
- 養成校との連携が不可欠
- 求人情報を学校・学生はどれくらい見ているのか? 園側からだとはわからない
- スケジュールの問題で、短大が4年制の大学へ移行することも増えている
- 公立志向の学生がやはり多い
- 公立園の民営化が多くなってきている
- 養成校と園と協力して質の高い幼児教育をしていくにあたって、一緒に子どもを育てていきたい↓その後教員となって戻ってくる
- 新卒の27%位が1年で退職しているの
- で、この現実を解決していきたい
- この職業は素晴らしい、一生かけて行っていく仕事
- どういったことを重視して採用するかを知りたい
- 保育所と比べると幼稚園はハードルが高い、学生が尻込みしてしまう↓入りにくい印象を受けている
- 実習生と担当の先生と合わない、実習

生の前と園長の前では態度が違う先生↓

- ①人間関係
- ②待遇面の順
- ③1年生2年生は幼稚園希望者がほとんどいない
- 学生の志向は小規模保育所や企業主導型も増えている
- ↓いろいろな受け皿が増えていく、学生にどう説明しているのか?
- 実習で自信を無くして一般企業や小規模や企業型保育所に流れる学生がいる
- 実習が進路決定に重要な要素である
- 育児や産休があるのか、結婚して子どもを産んでも長く勤めたいと思っている
- 離職の理由は、人間関係、先生同士の陰口↑これらは実習で見てくる
- 首都圏では、企業立の施設の人材獲得競争がすごい
- 初めて男性教員採用(私立幼稚園) ↓女性ばかりの中に自分だけという環境に慣れている、保育の幅が広がる、しかし、給与や待遇面に不安
- 人材派遣会社にお金を払ってまでしない採用できないようになるのか?
- 浜松地区や遠州地区は以前からガイドラインを実施しているが、県単位で実施していないのは遅れている
- 学生にもっと私立幼稚園を知ってもらうため、こちらも門戸を開かねば
- 実習先の先生との相性の悪さがその養成校では引き継がれていってしまう、それはもったいない



# 清水地区探索

## ◆そば打ち体験

静岡市の「清水森林公園やすらぎの森」にある、笑味の家では一人1800円（食事とお土産つき）でそば打ち体験ができます。そば粉と小麦粉に水を入れ両手でよくなじませたら、こねる・のばす・たたんで切るの行程で3ミリ位の太さのそばに仕上げます。



お店で用意してくれた冷たいゆと、温かいつゆの両方に薬味を添えて手作りそばを堪能しました。

とても美味しく大満足でした。そば打ち以外に、味噌やもち、こんにやく作りも体験できるそうです。

■問い合わせ 笑味の家 054-395-229

## ◆静岡市子どもクリエイティブタウン 愛称「ま・あ・る」(まなぶ・あそぶ)の略

清水駅前のビル「えじりあ」に、子どもを対象に仕事体験やものづくり体験を通じて自主性や創造性を育み、社会・経済の仕組みや地域産業を学ぶ「ま・あ・る」があります。全国で唯一常設の施設で、平成25年1月開館以



代表的なものとして、「子どもにもよる子どものための子どものまち」をコンセプトにした、大人は手出し口出し無用の「子どもバザール」があります。

小学4年生以上の子ども店長を中心に運営されているお店でしごと体験をします。

その他、企業や大学・商店街の協力による仕事の魅力やものづくりの面白さを学ぶ「しごとものづくり講座」では、パソコンやクッキングなど幅広いジャンルの工夫されたプログラムにも参加できます。

土日祝日は小学生が中心ですが、ちびっこ親子は平日、ひだまりパークで自由に遊んだり、予約なしでも遊べるちびっこ英語・リトミックなど平日プログラムも充実しているのでお勧めです。

こども園・幼稚園の年齢に合った「ま・あ・る」ならではの体験も団体利用ができるようなので、興味のある方は詳細をお問い合わせください。

■問い合わせ 静岡市子どもクリエイティブタウン 054-367-4320

# ツアー

## ◆日本平夢テラス

駿河湾・伊豆箱根の山々、そちばな号)のお駕籠をイメージしたとして優美な富士を一望できる名所として多くの人々が訪れる日本平に昨年完成した「日本平夢テラス」は、標高300メートルの丘陵地にあり、施設として一階が展示フロア、二階にラウンジ、三階に展望フロアがあります。そして、屋外に設置された天望回廊は、約1年7ヶ月をかけて建てた神社で、庭園や、様々な姿を見せてくれる富士山をはじめ、三保松原・清水港・南アルプスなど360度の「パノラマ展望」を存分に楽しむことができます。土曜日には21時まで素晴らしい夜景も見ることがも...♡

社殿の様式は、当時では最高の建築技術を集結した「観現造」で、拜殿・石の間・本殿からなる複合社殿の最奥部には神廟(家康公のお墓所)が西向きに建てられています。東照宮博物館に収蔵された資料も併せて、見逃せない歴史的建築物のあれこれは一見の価値があります。



## ◆日本平ロープウェイ(片道600円・往復1100円)と久能山東照宮(拝観料大人500円)

名勝地日本平と国宝久能山東照宮を結ぶ全長1065メートル

以上、見どころ満載の清水地区へ是非お出かけください。



## 食物こぼれ話 (その2)



上野幼稚園 吉野友勝

日本が明治維新を経て近代国家への道を歩み始めたとき、明治政府は西欧の文化・技術・医学等を取り入れました。その中に東京大学で生物学を講じた進化論を紹介し、大森貝塚を発見したアメリカの動物学者・モースやドイツの内科医・ベルツがいました。彼は東大で医学教育・研究・診療をし東大医学部創設に尽力し、のちに宮内省御用掛を務めました。

### モースとベルツの観察から

「この国の人たちの食生活は私たちのそれと異なっている。魚は食べるが肉や乳製品は食べない。お米を主に食べ、味噌汁と呼ばれるスープを飲む。その中には野菜や私たちは食べない海の草も入っている。ゴボウと呼ぶ草の根も食べる。味噌・醤油と呼ぶ大豆を材料にした発酵調味料を持っている。塩やそれらを利用した漬物を添えてお米を食べる。お米は私たちに淡白な味なので、味噌汁や漬物がそれをカバーしているようだ。また、梅干しと呼ぶ酸っぱいブラムの漬物を、おむすびと呼ぶライスポールの中に入れて食べたりする。私たちの学問常識から見ると、この国の人たちは素食で栄養不足

だと思う。しかし不思議なことに非常に体力がある。更にこの食事では

糖尿病は有り得ない」鎖国をしていた東洋の小さな国は不思議で一杯でした。そこでベルツはある実験をしました。

### 内科医・ベルツの実験

20歳と25歳の人力車夫を雇い、体重80kgの成人男子を乗せ東京中を一日40km走ってもらいました。現在のような運動靴もなく舗装道路でもありません。一週間後、消耗しているだろうと思ひ体重測定をしてみると、一人は変化無し、もう一人は500g増加でした。そこでベルツは、当時の世界最先端のドイツ医学と栄養学に基づき栄養バランスのとれた食事を食べてもらい同様に走ってもらいました。しかし、二人とも三日間で走れなくなりました。かわいそうに思ひ、今まで通りの食事にしてもらうと数日でまた走ることができました。

同僚のモースが、「この国の人たちは素食でも馬より体力がある」と言っていたのでベルツは別の実験をしました。

別の人力車夫一人と四頭立て馬車を雇い、馬の数に合わせ60kgの成人男子四人を馬車に人力車に一人を乗せ、東京から日光まで走ってもらいました。結果は馬車は途中で馬を替え、人力車は一人でしたが、到

着は約一時間人力車が先でした。モースが言っていたことが証明されたのです。ベルツは一時帰国したときにヨーロッパ医学界に実験を紹介したが、まだ知られていない東洋の小国の特異な話で終わったようです。後日談はありません。東北大学医学部の古い出版物から拾いました。実験が示したことは慎重に検討する必要がありますと結んでいました。

### 素朴な疑問

明治初期の医学・栄養学が日本人の食と体力に疑問を感じ実験してから約150年、今では糖尿病の増加や健康不安の増大、癌は二人に二人の時代になっています。冷静に単純に考えると、結局は欧米型の食事の増加と暖衣飽食と言われる時代の食べ過ぎが糖尿病や様々な病気の原因では？また、便利さ豊かさを求め安易に合成添加物を利用し、日常生活に化学物質を多用し環境悪化を招き、肉体の弱体化と健康不安を招いたのでは？○にはこれが効く

あれが良いと補助食品の宣伝や健康情報は溢れるが、栄養素のつじつまが合っていれば全ての生命現象が説明できるのか？栄養不足ではと思われた御飯・野菜や海藻入り味噌汁・漬物の食事は、現在「和食」の原点として世界無形文化遺産です。自

分の生活を見直す出発点では？

ずっと料理の味は四種類と考えられていたが、五番目の味「旨み」を日本人が発見しました。それが古くから和食の基本になっている出汁（だし）です。シイタケ・コンブ類を煮出した旨み成分がグルタミン酸。鰹節や煮干し等を煮出したのがイノシン酸。和食は出汁を基本にしてきました。技術の進歩でそれらの化学式を調べ化学合成されるようになりました。大量生産でき使い勝手も良い。でも化学調味料と言うと聞こえが悪いから、今は調味料（アミノ酸等）と表示されています。煮出した自然の旨みより濃い味で味覚を刺激し、おいしいと感じさせます。様々な食品・お菓子類に使用されています。乳幼児にとつては味覚の発達によいことではないと言われています。合成されたグルタミン酸もイノシン酸もNa（ナトリウム＝塩）を含みます。見えざる塩分です。安売りの味噌・醤油に調味料（アミノ酸等）の表示があれば、製造に使用の塩分プラスの塩分になります。塩分過多は言われますが、見えざる塩分の認識がありません。原材料表示を見る習慣が大切です。



# 1年間の

# ナイスショット特集



高いところは気持ちいいよ!

みんなものほっぺおいだよ☆



トリックオアトリート♪

しゃぼんだまのあかちゃん

いっぱいまれててできた～



おつきい～♪



あ～、楽しい!!泥んこ最高!!

おたんじょうびおめでとう!



わ～ヒヨコさん寝ちゃった♡



見て見て!きれいな色水できたよ

大豆がとれたよ。

カチカチの大豆。

どうやってたべようかな。



みんなで一緒

高いところは気持ちいいな





鬼さんこちら手の鳴るほうへ



カブラでこんなに大きな作品ができたよ!



メリークリスマス★

おいしいケーキのできあがり〜♪



大きなキャベツが採れたよ!



跳び箱にチャレンジ!



梅園にお散歩に行ったよ!



メロディオン、心を合わせて弾くよ!



お父さんたちと雪だるまを作ったよ!



鬼だぞ〜がお〜!

みんなでびーす!



【編集後記】

『平成』もいよいよ残りひと月余となりました。この一年は何をやっても「平成最後」と冠が付くので、これも「平成最後」の編集後記になります(笑)

皆さんにとっての『平成』はどんな時代でしたか?私は平成元年に幼稚園に就職したので、昭和=子供時代、平成=大人時代です。就職・結婚・親の死と人生の大きな変化は

全て平成とともにありました。

五月からは新しい時代が始まります。幼児教育・保育の無償化、働き方改革、東京オリンピックなど社会も大きく変化します。本園も認定こども園化に向け準備が始まります。

新しい年号発表まであと二週間。新しい時代も歩みを止めず、より良い幼児教育を目指して進化していきましょう。

広報委員/しらゆり幼稚園 山本 環

発行人/千葉 一道  
編集人/杉山 京子  
広報委員会

発行所/(一社)静岡県私立幼稚園振興協会  
〒420-0853  
静岡市葵区追手町9番26号  
静岡県私学会館内  
TEL:054(254)6820・FAX:(255)3694

http://www.shizushiyou.or.jp/  
E mail: office@shizushiyou.or.jp



このQRコードを携帯電話の「QRコードリーダー」で読み込めば、協会HPの携帯サイトにそのままアクセスできます。